厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

ドクターヘリの効果的な運用と安全管理に関する研究
④ドクターヘリ夜間運航に関する研究：④-3）論点整理
3.ドクターヘリ夜間運航のアンケート調査

研究分担者　早川　達也　聖隷三方原病院高度救命救急センター　センター長
研究協力者　篠田　伸夫　認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）
市川　晋　朝日航洋株式会社
久保田陽一　朝日航洋株式会社
平井　克弥　中日本航空株式会社
森本　嘉樹　中日本航空株式会社

研究要旨
ドクターヘリの夜間運航を検討するにあたっての課題を抽出するために、ドクターヘリ運航会社を経由して、ドクターヘリを運航する 46 都道府県、56 拠点、63 基地病院を対象に実施した。
ドクターヘリの夜間運航実現に際しては、使用可能な離着陸場の確保が必要となるが、管内に使用可能な離着陸場は、ほぼ確保されていないものと思われた。ドクターヘリの夜間運航については、一定程度の需要は存在する、と思われたが、離着陸場確保の困難性、安全運航の確保のために必要とされる対策等により、ドクターヘリの機動性を活かした出動が制限されることへの検討が必要である。

A．研究目的
ドクターヘリの夜間運航は現在行われていない。ドクターヘリの夜間運航を検討するにあたっての課題を抽出するために、アンケート形式で調査を行った。

B．研究方法
アンケートは、ドクターヘリ運航会社の所属する全日本航空事業連合会ヘリコプター部会ドクターヘリ分科会を経由し、ドクターヘリを運航する46都道府県、56拠点、63基地病院を対象に実施した。
（倫理面への配慮）
本研究で行なったアンケートには、個人を特定する項目は含まれておらず、倫理的問題を生じないと考えられた。

C．研究結果
結果を表 1. に示す。
63 基地病院のうち、施設として夜間に対応できていないものは、6 病院であった。また、対応可能とされる 57 病院のうち、実際に他機関の機体による離着陸の実績のあるものは、24 病院であった。
56 拠点のうち、管内の夜間対応可能な離着陸場がなし、あるいは不明なものは 5 拠点であった。また、夜間対応可能な離着陸場を有しているとした 51 拠点のうち、常時対応可能な離着陸場があるものは 16 拠点であった。対応可能な離着陸場を有する、とする拠点であっても、使用可能な離着陸場は、基地病院以外で 1 カ所とされるものは、17 拠点であった。その他の拠点は、数カ所程度が多く、多いところでは 14 カ所であった。
一方、夜間運航の需要については、2 拠点より回答を得られなかったが、需要なし、としたものは、9 拠点であった。需要あり、とした 45 拠点のうち、20 時まで、あるいは早朝の需要ありとしたものが、14 拠点であった。また、需要あり、とした 45 拠点のうち、他機関での代行が可能としたものは、22 拠点であった。
続いて、夜間運航実現の障壁となるものについては、安全運航そのものの実現に困難がある、とするものは 27 拠点であった。騒音についての指摘は、39 拠点よりなされた。照明設備等の確保も含めた夜間使用可能な離着陸場の確保の困難性について指摘したものは、34 拠点であった。また、勤務時間の調整も含めた人員の確保について指摘がなされたものは、38 拠点であった。

D．考察
ドクターヘリの夜間運航実現に際しては、使用可能な離着陸場の確保が必要となる。基地病院の多くは、対応可能と思われるが、管内に使用可能な離着陸場は、ほぼ確保されていないといえる。
ドクターヘリの夜間運航については、一定程度の需要は存在する、と思われるが、こうした離着陸場確保の困難性、安全運航の確保のために必要とされる対策等により、ドクターヘリの機動性を活かした出動が制限されることへの検討が必要であろう。

また、離着陸場確保のための具体的な騒音対策は、検討にも至っていないのが現状であろう。
操縦士の確保を含めた人員の確保については、現状では、短時間に解決できるものではない。

Ｅ．結論

ドクターヘリの夜間運航については、需要についてはあるものと思われたが、実現について具体的な検討を行うためには、夜間も使用可能な離着陸場の確保及び人員の確保が必要であり、現状では時期尚早と思われた。

Ｆ．研究発表

1. 論文発表
   なし
2. 学会発表
   なし

Ｇ．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
   なし
2. 実用新案登録
   なし
3. その他
   なし

表1. アンケート結果

施設として対応の可否(63 基地病院)	対応可能　57/63	対応不可　6/63
	他機関ヘリの離着陸実績あり　24/57	
	他機関ヘリの離着陸実績なし　33/57	
管内の夜間対応可能な離着陸場の有無(56 拠点)	離着陸場あり　51/56	離着陸場なし乃至不明　5/56
	常時対応可能な離着陸場あり　16/51	
	常時対応可能な離着陸場なし　35/51	
	基地病院以外に一カ所のみ　17/51	
	基地病院以外に数カ所程度　34/51	
夜間運航の需要の有無(54 拠点)	需要あり　45/54	需要なし　9/54
	20 時まであるいは早朝の需要あり　17/45	
	（時間帯に関係なく）需要あり　28/45	
	他機関ヘリで代行可能　22/45	
	他機関ヘリで代行不可　23/45	
夜間運航実現に際しての障壁(56 拠点)	安全運航の実現が困難との指摘　27/56	
	騒音についての指摘　39/56	
	離着陸場確保が困難との指摘　34/56	
	人員確保についての指摘　38/54	